

25年8月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成25年 7月20日～ 8月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
8月分の回答企業数は14社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

| 品目 | | 25/8月 | 9月 | 10月 |
|------|--------|--------|--------|--------|
| 入荷動向 | スギ・ヒノキ | △ 25.0 | △ 4.2 | △ 4.2 |
| | マツ | △ 40.9 | △ 18.2 | △ 13.6 |
| | 広葉樹 | △ 30.0 | △ 26.7 | △ 20.0 |
| 消費動向 | スギ・ヒノキ | △ 22.7 | △ 4.5 | △ 9.1 |
| | マツ | △ 40.0 | △ 25.0 | △ 25.0 |
| | 広葉樹 | △ 7.1 | 3.6 | 3.6 |
| 在庫動向 | スギ・ヒノキ | △ 22.7 | △ 18.2 | △ 18.2 |
| | マツ | △ 25.0 | △ 10.0 | △ 16.7 |
| | 広葉樹 | △ 28.6 | △ 17.9 | △ 25.0 |

チップ原木の入荷状況は、スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹共にマイナス基調で推移。ただし、10月に向けそのマイナス幅は縮小。チップ原木の消費は、スギ・ヒノキ、マツ共にマイナス基調、広葉樹は8月のゼロから9、10月は小さなプラスに。チップ原木在庫動向は、スギ・ヒノキ、マツ、広葉樹共にマイナス基調で推移。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

| 品目 | 25/8月 | 9月 | 10月 |
|--------|-------|-----|-----|
| スギ・ヒノキ | △ 8.3 | 0.0 | 4.2 |
| マツ類 | △ 9.1 | 0.0 | 0.0 |
| 広葉樹 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

チップ原木価格は、スギ・ヒノキ、マツは8月の小さなマイナスから9、10月は横ばいないし小さなプラスに、広葉樹は横ばいで推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き) ・スギ、ヒノキの仕入れは端境期で増えず、マツはパレット、建築用等用途減、原木価格低下、マツクイで出材減、広葉樹チップ単価安値、家具等の使用減、作業コストアップで出材減、消費はスギは製紙会社の使用減、マツ及び広葉樹は絶対量少なく受け入れ制限あるも影響無し、在庫は製紙会社の使用減で増加。 ・ゲリラ豪雨で伐採作業のみで搬出できず、10月までには在庫も通常に戻りそう。 ・入荷は引き続き堅調。工場の舗装を控え一部在庫の調整を下期(10月)から行う。 ・7月末の水害の影響心配されるが仕入れ、消費及び在庫とも変動あまりないと予想。 ・広葉樹原木は8月かなり減少するものと思われる。 ・国有林の生産請負始まりスギ林の中の広葉樹も少しずつ入荷も盆休みで伐出も長期休暇。消費はボイラー点検も終わり受け入れ制限終了するも盆休みで稼働率低下。出荷に対して入荷少なく在庫は減少。 ・チップ生産割当量に基づく仕入れ。計画に基づく在庫調整。 ・仕入れは国有林システム販売、民有林間伐材、民間からの全伐低質材が入荷、広葉樹は支障木主体に入荷、消費はNチップの出荷枠が増え、Lも生産余力があれば増産できる状況、在庫はNチップ減少するがまだ過剰在庫、その多くはFITの間伐材等の適合材。 ・Lチップは昨年後半からの減産は解除の状態、L在庫はやや増加。 ・梅雨明けしたが、猛暑で仕入れ少ない。 ・仕入れは針葉樹、広葉樹とも横ばい、消費は製紙工場の定期修理終わり受け入れ停止解除も在庫多く引き取り低調、在庫は針葉樹は使用より入荷多くやや増加、広葉樹は在庫なくその日暮らし。 ・夏暑く現場作業能率低下で入荷減、消費は9月より針葉樹チップ多くなり、広葉樹チップ減少。8月入荷少なく在庫減、9月からは針葉樹在庫減少し、広葉樹在庫増の見込み。

(原木価格) ・製紙用チップ原木は価格値下げの方向、燃料用チップ原木は値上がり。 ・変動なし。 ・針葉樹は6月から値下げで8月以降も同額購入の予定。広葉樹は8月の出材状況見て判断。 ・広葉樹は入荷少なく価格変動なし。 ・スギ・ヒノキ、広葉樹変動なし。 ・買入価格に変更はない。 ・針葉樹は製紙の値下げに伴い当社買い入れ価格も7～8月に300～500円/m3値下げ、広葉樹は横ばい。

25年8月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

| 品目 | | 25/8月 | 9月 | 10月 |
|------|--------|--------|--------|--------|
| 生産動向 | スギ・ヒノキ | △ 36.4 | △ 9.1 | △ 4.5 |
| | マツ類 | △ 20.0 | △ 15.0 | △ 15.0 |
| | 広葉樹 | △ 15.4 | 11.5 | 7.7 |
| 出荷動向 | スギ・ヒノキ | △ 25.0 | △ 4.2 | 0.0 |
| | マツ類 | △ 20.0 | △ 15.0 | △ 10.0 |
| | 広葉樹 | △ 17.9 | 3.6 | 7.1 |
| 在庫動向 | スギ・ヒノキ | △ 20.0 | △ 20.0 | △ 15.0 |
| | マツ類 | △ 22.2 | △ 22.2 | △ 16.7 |
| | 広葉樹 | △ 41.7 | △ 29.2 | △ 16.7 |

木材チップ生産動向は、スギ・ヒノキ、マツは共にマイナス基調、広葉樹は8月のマイナスから9,10月はプラスに。
 出荷動向はスギ・ヒノキは8,9月マイナスが10月にはゼロに、マツはマイナス基調で推移、広葉樹は8月のマイナスから9,10月はプラスに。
 在庫は、スギ・ヒノキ、マツ、広葉樹共にマイナス基調で推移。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W.

| 品目 | 25/8月 | 9月 | 10月 |
|---------|-------|-----|-----|
| スギ・ヒノキ類 | 0.0 | 0.0 | 4.2 |
| マツ類 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 広葉樹 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

チップ出荷価格は、スギ・ヒノキ、マツ、広葉樹共に横ばい。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き) ・製紙会社設備点検のため生産減。出荷は製紙の受け入れ制限でスギ、ヒノキは払い出し少なく、マツ、広葉樹は数量少なく安定。在庫は出荷良くないが入荷少なく横ばい。 ・出荷は燃料チップ増加の見込み。 ・製紙工場定期修理のため入荷減。 ・変動なし。 ・8月は製紙会社も盆休み、設備点検で出荷数量もやや減少。 ・盆休みもあり生産落ち込む、製紙工場の増産に期待。出荷はトラブルもなく順調、油の値上げが気になる。生産則出荷で在庫はない。 ・スギ、ヒノキは自社製品生産、広葉樹は取引先の計画数量生産。スギ、ヒノキは家畜用粗飼料及び敷料出荷、広葉樹は取引先計画数量の出荷、在庫はなるべく残さない。 ・スギ・ヒノキは製紙用出荷枠が回復し、今後は燃料用の出荷が出てきそうです、松は原木少なく一定量、Lは生産余力なく一定量です。 ・定期修理で、出荷予定の前後あるが、月内納入はできている。 ・生産は針葉樹は生産調整継続中、広葉樹は原木有るだけ生産、燃料用は盆休み中に生産した分増加。出荷は針葉樹は製紙工場定修終わり受け入れ停止解除も在庫多くチケット管理で引取量抑制中、広葉樹は全量引き取り中。在庫は針葉樹は原木、背板ともやや増、広葉樹は在庫なし。

(木材チップ価格) ・下期(10月)より価格見直しの期待。 ・変動気配なし。 ・変動なし。 ・輸入チップ価格によっては下げられる可能性。 ・先月と変わらず、円安による製紙会社の値上げに期待。 ・スギ、ヒノキ及び広葉樹変動なし。発電用のFIT価格は、競争がないため予想より安く、出材は増えない、山、チップとも利益を出せる状況でない。 ・針葉樹、広葉樹とも横ばい。